トキ坊と高ばあ ⑪ 聞く気持ち

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 4コマ漫画で伝える ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

『育じい・育ばあ』のための「ほめほめ講座」

分かりやすい言葉は聞く気持ちを育てる

昨日・今日・明日・明後日、時間の流れの理解は幼児には難しいです。「明日は行ける」と言っても「明日」という言葉の意味を理解していないのですぐに出かけることと思い、「イヤだ、行く！」と駄々をこねることになってしまうことがあります。

ポイント❶ 昨日・今日・明日などの時間の関係を理解できるのは、小学生になるころからです。

日や時間などは、分かっているようですが実はまだ理解されていません。理解できる年齢ではないことを前提に話しましょう。

ポイント❷ 「今日は公園に行けないよ」とはっきり伝えます。

できないことはあいまいにせず、しっかりと伝えましょう。「明日は行ける」の言葉の中で理解できるのは「行ける」です。明日は消えてしまい「行ける」だけが残ります。

ポイント❸ 「今日の夜寝て、朝になったら明日になるよ」と時間の流れを細かく伝えましょう。

「明日」の意味を分かりやすく伝えることで、「我慢」しなければならないことの意味が分かってきます。気持ちを切り替えられたらほめることも忘れないでください。

分かりやすい言葉の積み重ねから聞く気持ちが育ってきます。

問市民福祉部子ども若者課　子ども若者相談センター
☎５８―８０７７

市立病院からこんにちは

両津病院
岩谷　淳　先生
診療科目／小児科

スウェーデン医療事情

スウェーデンの医療事情を教えてもらう機会がありました。スウェーデンでは、病気やけがは治るまで自宅で待つもので、病院はいつまでも治らない時や、悪くなった時に行くところという意識が浸透していて、インフルエンザなどの感染症は、まき散らさないためにも自宅で養生する病気とのことでした。救急外来は待ち時間が長く、重症者から先に診察し、軽症の場合は帰宅を促されることもあるようです。その代わり24時間の電話相談などが充実していて病気の対処法を詳しくアドバイスしてもらえるそうです。

一見、スリムでスマートに思える医療事情ですが、スウェーデンでは病気の時の休業期間の給料が保証され、また、子どもが病気で休む時も親の休業が当然の権利として保証されている社会制度がそれを可能にしている面もあると言えます。

一方、スウェーデンでは、患者は順番を待っている間に亡くなると揶揄されるほど手術や入院の待機時間が長く、待ちきれずに近隣国で治療を受けるケースも少なくないことが大問題になっているそうです。一番の原因は、看護師不足のために入院病床が激減しているためで、医療人材不足の問題は世界共通のようです。

さて、インフルエンザの流行期に入りました。日本には世界に誇るべき国民皆保険制度とアクセスの容易な医療環境があります。薬の早期の使用でインフルエンザの重症化を防げるケースは多く、お子さん、持病のある方、ご高齢の方は、インフルエンザが疑われる場合、早めの受診をお勧めします。ただし、夜間の救急受診は診療体制が不十分のためお勧めできません。

次回は両津病院の小林先生です。